

Map related to Osaka Castle
OSAKAJO no ISHIGAKI



大坂城の石垣

エリア

[大阪城とその周辺]

[近畿] / [西日本]

いざ、石のふるさと、
石垣の痕跡探訪へ！



令和7年(2025)
春オープン予定！

豊臣期石垣公開施設(仮称)



豊臣秀吉が天下統一の拠点として築いた大坂城は、「三国無双」・「日本一堅固」と称賛される豪華華麗な城郭でしたが、大坂夏の陣で落城。その後、徳川幕府は大坂城の再築にあたり、豊臣家の権威を消し去るかのよう、旧城を盛り土で地中に埋めてしまいました。本施設では、発掘調査で姿をあらわした高さ約6mの地下石垣を公開します。徳川再築の石垣とは異なる魅力と迫力、そして驚くべき盛り土の分厚さを体感していただきます。

[大阪城とその周辺エリア] ①

大阪城天守閣

〒540-0002 大阪市中央区大阪城1番1号

電話:06-6941-3044

FAX:06-6941-2197

URL:<https://www.osakacastle.net/>



大阪城は見どころがいっぱい！

特別史跡 大阪城跡
大阪城公園



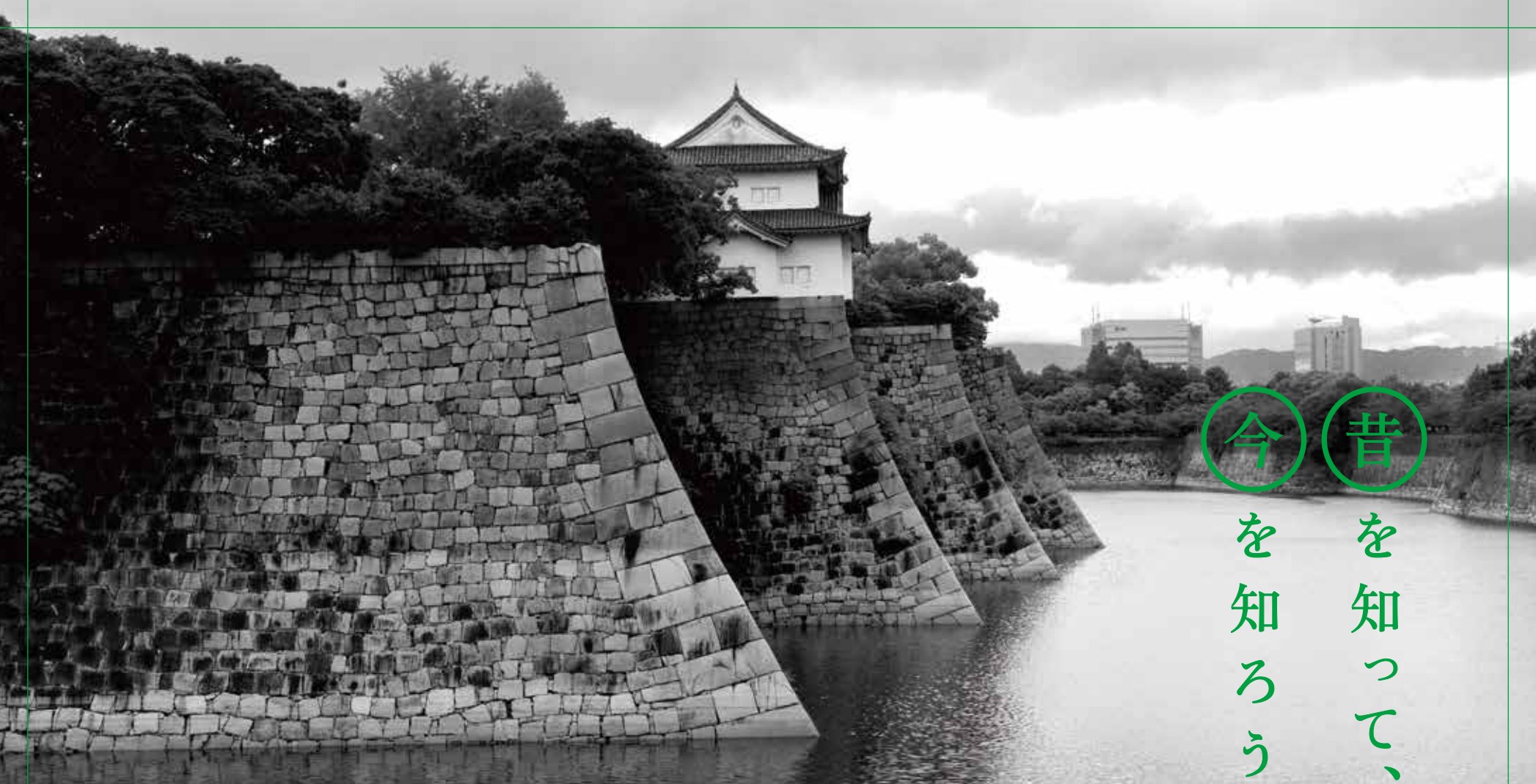
JO-TERRACE
OSAKA



MIRAIZA
OSAKA-JO



2024年9月発行



昔を知って、 今を知ろう！

大坂城は、秀吉が天下統一の拠点にすべく、当時の土木建築技術の粋を集めて築いたものです。築城が始まったのは天正11年（1583）9月でした。およそ2km四方に及ぶ広大な城で、石垣の積み石は生駒山系や六甲山系から運ばれました。天守や御殿には金箔瓦が輝いていましたが、慶長20年（1615）の大坂夏の陣で焼失しました。

豊臣時代の大坂城の石垣は地中に眠っています。徳川幕府が再築するさい、盛り土をして埋めたからです。それがわかったきっかけは、昭和34年（1959）に本丸で実施された調査でした。このとき地下から石垣が見つかり、当初は「謎の石垣」と呼ばれました。石垣には、30cmから60cm程度の石が使われており、積み方は自然の石をあまり加工せずに積む野面積みという方法でした。この石垣がその後の調査で豊臣時代のものと判明したのです。

徳川幕府は元和6年（1620）、西日本の支配の要とすべく、大坂城の再築工事を開始しました。主に西日本と北陸の64家の大名を動員した、いわゆる天下普請でした。工事は將軍秀忠・家光の2代にわたって続けられ、約10年後に完了しています。現在、地上に残る石垣は徳川幕府が築き直したものです。

関ヶ原合戦から大坂の陣に至る時期には、全国各地で城が築かれ、石垣を含めた築城技術が著しく向上しました。徳川再築の大坂城はその到達点を示すものです。石垣は、石どうしの隙間を減らすように石を加工して積む打ち込みはぎや、さらに成形し隙間をなくして積む切り込みはぎという方法で築かれました。積み石の産地としては、生駒山系や六甲山系、小豆島など瀬戸内海の島々、九州の福岡県行橋市などが知られています。重さ100tを超えるような巨石が多く使われたことも、徳川再築大坂城の特徴です。

大坂城を訪れると、豊臣期から徳川期への石積み技術の移り変わりを目の当たりにできます。石垣の歴史を見るのに、これほど適した場所はないでしょう。

大坂城を築くには、豊臣・徳川いずれの場合も、積み石をはじめ大量の資材が必要でした。それらの産地と大坂はかつて強く結びついていました。とりわけ、大坂城の石垣にゆかりのある地がこんにちいくつも知られています。

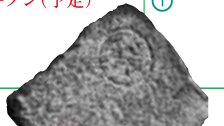
年表



- 明治5年12月3日(旧暦)を明治6年1月1日(新暦)とする太陽暦への改暦以前については、旧暦のままの日付で記載しています。
- 「大坂」「大阪」表記については、便宜上原則として慶応4年(1868)1月9日の城中大火までを「坂」とし、それ以降を「阪」としています。
- 史跡の用字は常用漢字を優先しています。

和暦	西暦	出来事	エリア番号
明応5	1496	9月29日 本願寺8世蓮如上人が現在の大阪城の地に坊舎を建て始める	
天文2	1533	7月25日 本願寺が山科から大坂へと移る[大坂(石山)本願寺成立]	
元亀元	1570	9月12日 本願寺対織田信長の石山合戦が始まる	
天正8	1580	8月2日 石山合戦が終結、本願寺伽藍が焼失する	
天正10	1582	6月2日 本能寺の変で信長が自害する	
		6月13日 豊臣(羽柴)秀吉が山崎合戦で明智光秀に勝利する	
		6月27日 清洲会議で大坂城が池田恒興のものとなる	
天正11	1583	5月25日 大坂城主池田恒興が大坂城を秀吉に明け渡す	
		9月1日 秀吉が大坂城の築城を開始する [第1期工事:~天正13年(1585)]	① ② ④
天正13	1585	4月 豊臣大坂城の天守が完成する	⑦ ⑧ ⑨
天正14	1586	2月23日 秀吉が大坂城の二の丸の築造に着手する [第2期工事:~天正16年(1588)]	⑩ ⑪
文禄3	1594	2月10日 大坂城惣構え堀の普請が始まる[第3期工事]	
慶長3	1598	7月 秀吉の命により大坂城の増強工事が始まる [第4期工事:~慶長4年(1599)]	
		8月18日 秀吉が伏見城で死去する	
慶長4	1599	9月下旬 徳川家康が大坂城西の丸に入る	
慶長5	1600	家康が西の丸に天守を築く	
		9月15日 関ヶ原合戦で家康率いる東軍が石田三成ら西軍に勝利する	
慶長19	1614	10月~12月 大坂冬の陣が勃発し講和により終結、講和条件で本丸以外の堀が埋められる	
慶長20	1615	5月7日 大坂夏の陣で大坂城が落城する	
		5月8日 豊臣秀頼・淀殿が大坂城内で自害し、豊臣家が滅亡する	
		6月8日 松平忠明(家康の孫)が大坂の地を与えられる	
元和5	1619	7月22日 2代将軍徳川秀忠が松平忠明を大和国郡山に転封し、大坂を幕府の直轄地とする	
		9月16日 徳川幕府により大坂城石垣普請が発令される	
元和6	1620	3月1日 徳川幕府が大坂城の再築にとりかかる [第1期工事:~元和8年(1622)]	③ ④ ⑤
元和10	1624	2月1日 本丸・天守などの築造に着手する[第2期工事:~寛永3年(1626)]	⑫ ⑬ ⑭
寛永3	1626	徳川大坂城の天守が完成する	⑮ ⑯ ⑰
寛永5	1628	3月5日 二の丸南面の築造に着手する[第3期工事:~寛永6年(1629)]	① ~ ⑩
寛永6	1629	大坂城再築工事が完了する	① ~ ⑬
万治3	1660	6月18日 青屋口焰硝蔵が落雷により爆発する	
寛文5	1665	1月2日 天守が落雷により焼失する [これ以降、昭和6年(1931)の復興まで天守のない城となる]	
宝永元	1704	大和川の付け替え工事が行われる	
天明3	1783	10月11日 大手に落雷があり多聞櫓・大門等が焼失する	
弘化2	1845	大坂城の大規模な修復工事が始まる [幕末大坂城総修復工事:~安政5年(1858)]	
慶応4	1868	1月6日 鳥羽・伏見の戦いで幕府方が敗北し、15代将軍徳川慶喜が大坂城を脱出する	
		1月9日~10日 戊辰戦争の城中大火で城の大半が焼失する	
明治4	1871	8月20日 新政府が大坂城内に陸軍の大阪鎮台(のちの第四師団)を設置する	
昭和6	1931	11月7日 市民の寄付金により大阪城天守閣が復興される[豊臣期・徳川期に続く3代目天守]	
昭和20	1945	6月~8月 大阪城一帯が空襲の被害を受け城内の古建造物が多数焼失する	
		8月15日 終戦を迎える	
		9月29日 米軍により大阪城が接収される	
昭和23	1948	4月1日 戦時中市民の立入を制限していた大阪城公園の供用が一部再開される	
		8月25日 米軍による大阪城の接収が解除される	

和暦	西暦	出来事	エリア番号
昭和24	1949	7月14日 大阪市が大阪城天守閣条例を制定する	
		7月20日 天守閣の一般公開を再開する	
昭和25	1950	9月3日 ジェーン台風により城内の古建造物や天守閣屋根瓦などが被災する	
昭和28	1953	3月11日 大阪城修復委員会が発足する	
		3月31日 大阪城城一帯が国指定史跡となる[史跡 大坂城跡]	
		5月18日 大阪城修復委員会による古建造物・石垣の応急修理が開始される	
		6月13日 大阪城内の13の古建造物が国指定重要文化財となる	
昭和29	1954	6月4日 大阪城修復委員会による古建造物(乾櫓を除く)・石垣の応急修理が全て完了する	
昭和30	1955	6月24日 大阪城城一帯が国指定特別史跡となる[特別史跡 大坂城跡]	
		12月28日 天守閣が博物館相当施設に指定される	
昭和34	1959	3月15日 大坂城総合学術調査が開始される	
		12月20日 本丸地下から「謎の石垣」が発見される	②
昭和36	1961	8月16日 第二室戸台風により城内の古建造物が被災する	
昭和40	1965	5月12日 西の丸庭園が開園する	
昭和44	1969	9月30日 昭和31年(1956)から始まった城内古建造物すべての解体修理工事が完了する	
昭和46	1971	3月 減水を行い干上がった南外堀水底から新たな石列が確認される	
		8月 難波宮跡関連調査により森之宮西之町(現:森ノ宮中央2丁目)地下から豊臣期の焼土層と徳川期の石垣遺構が発見される	
昭和50	1975	10月~11月 日本経済新聞社の旧ビル建設予定地の発掘調査で徳川大坂城の第1期工事の関連遺構が発見される	
昭和54	1979	3月~9月 大阪城音楽堂建設予定地の発掘調査により豊臣大坂城の石垣が発見される	
昭和55	1980	4月~6月 追手門学院の校舎増築に伴う発掘調査により豊臣大坂城の石組遺構が発見される	⑦
昭和56	1981	7月5日 小豆島の残念石が大阪城に搬入され天守閣前に設置される	⑤ ⑥
昭和56	1981~	大手前女子短期大学(現:大手前大学)の増築工事に伴う発掘調査で豊臣期の金箔瓦や陶磁器片などが発見される	
昭和58	1983	10月1日 「築城400年まつり 大阪城博覧会」が開幕する[~11月23日]	
		10月 大阪築城400年の記念事業として山里丸に刻印石広場が整備される	③
昭和59	1984	10月 本丸での発掘調査により豊臣大坂城の「詰ノ丸石垣」が発見される	①
昭和61	1986~	大阪府立大手前高校の校舎建て替えに伴う発掘調査で豊臣期の建物跡や道路跡などが発見される	
昭和63	1988	3月 本丸での秀吉築造大坂城天守台石垣発掘調査により、豊臣大坂城の天守台石垣が発見される	
平成元	1989	大阪府立総合女性センター(現:大阪府立男女共同参画・青少年センター)建設予定地の発掘調査が開始され、平成4年(1992)までの調査期間中に豊臣大坂城の石垣が発見される	④
平成7	1995	12月6日 天守閣「平成の大改修」が着工する	
平成9	1997	3月29日 天守閣「平成の大改修」が完了する	
		9月3日 天守閣が国指定の登録有形文化財となる	
平成15	2003	大阪府警本部庁舎建て替えに伴う発掘調査で豊臣大坂城の堀と曲輪跡が発見される	
平成25	2013	4月1日 大阪市が豊臣大坂城の石垣を一般公開する施設の整備を目標とした「太閤なにわの夢募金」事業を開始する	①
平成26	2014~	豊臣大坂城の石垣を一般公開する施設の建設予定地の発掘調査で、徳川大坂城の舗道遺構(石敷の通路)が発見される	
令和7	2025	春 大阪城本丸に豊臣大坂城の石垣を公開する施設がオープン(予定) [昭和59年(1984)発見の「詰ノ丸石垣」]	①



豊臣大坂城の採石場は残っていないの？

大坂築城にあたって秀吉が、六甲や生駒、笠置の山地から石材を運んでこさせたことは、当時の史料で確認できます。それらは徳川幕府の大坂城再築時にも石の供給地となった山地で、徳川期の採石場が残っています。けれど現在、明確に豊臣期の採石場とわかっている場所はありません。なぜでしょう？

徳川大坂城の採石場がそれとわかるのは、現場に残されている石に、工事に参加した大名のマークなど、刻印が彫られているからです。しかし石をほとんど加工せずに用いた秀吉時代の築城では、基本的に刻印は彫られませんでした。しかも現場では、石をとり続ければ古い時代の痕跡は消えてしまいます。ゆえに豊臣大坂城の採石場は確認できていない、というわけなのです。



用語集

● 野面積み(のづらつみ)

自然石をあまり加工せずに積む方法。石が不揃いなことで生じる隙間には「間詰石(まづめいし)」と呼ばれる小石を詰め込んだ。

● 打ち込みはぎ(うちこみはぎ)

石どうしの隙間を減らすように石を加工して積む方法。

● 切り込みはぎ(きりこみはぎ)

石どうしの隙間を無くすように成形し積む方法。

● 算木積み(さんぎつみ)

石垣の隅石に直方体の石を用いて長辺と短辺が交互になるよう積み上げ、特に崩れやすい石垣の隅の強度を高めた石積み方法。

● 矢穴(やあな)

石を割る際に「矢」と呼ばれる楔(くさび)を打ち込むため、石に等間隔に開けられた穴のこと。

● 残石(ざんせき)

築城用の石のうち、実際に石垣として使用されなかった石の呼称で、「残念石(ざんねんいし)」ともいわれる。何らかの理由で残石となった石が、石丁場跡や水運に関係する川や浜辺、大坂城に至る街なかなど、各地に多数存在する。

● 丁場(ちやうば)

工事・作業の担当区域のこと。「丁場割」は丁場の割り当てを指し、「石丁場」は各大名が確保した採石・加工の作業場のこと。

● 普請と作事(ふしんとさくじ)

普請は土木工事のことで、徳川大坂城では戸田氏鉄(とだうじかね)が普請総奉行を務めた。作事は建築工事のことで、徳川大坂城では小堀遠州がこれを指揮した。なお、城の基本設計である縄張は將軍秀忠の命を受けた藤堂高虎によるもの。

● 花崗岩(かこうがん)

マグマが地下深部でゆっくり固まってできた石で、美しい見た目と硬さがあり、耐久性に優れるといった特徴がある。徳川大坂城の石垣はほとんど花崗岩で構成されている。

● 刻印石(こくいんせき)

大名の目印となる家紋や記号などの「刻印」が彫り込まれた石のこと。どの石丁場から切り出されたかを示すため、自分たちが切り出した石だということを示すため、自身の持ち場を示すためなど、「刻印」をマークする理由は様々あったと推測される。

● 修羅(しゅら)

その形をした木製の運搬具。丸太を並べた上に石など重い荷物を載せた修羅を置き、大人数で曳いて動かした。

※ちなみに修羅の名前は、阿修羅が帝釈天(帝釈=たいしゃく=大石)に戦いを挑んだ逸話が由来ともいわれる。



野面積み
(豊臣大坂城/詰ノ丸石垣)



打ち込みはぎ
(徳川大坂城/西外堀石垣)
(第1期工事)



切り込みはぎ
(徳川大坂城/南外堀石垣)
(第3期工事)

その周辺

大阪城と

〔エリア〕



乾櫓下の石垣には普尾産の石

北内堀越しに天守閣を望む

- ① 豊臣期石垣公開施設
- ② 大阪城本丸地下「謎の石垣」(通常非公開)
- ③ 山里丸刻印石広場
- ④ 山里丸隠し曲輪刻印石
- ⑤ 北東内堀刻印石
- ⑥ 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)
- ⑦ 追手門学院小学校
- ⑧ 大阪国際がんセンター前残石



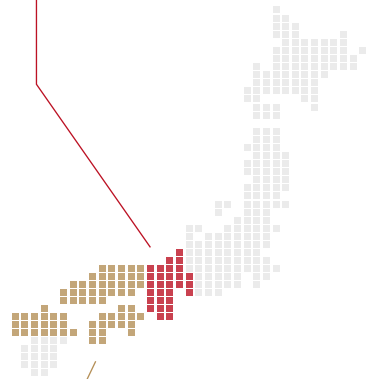
刻印石広場



沓尾山遠景

近畿

「エリア」



小豆島天狗岩丁場跡入口の案内石碑



西日本

「エリア」



土のなか、
街のあちこちに
残っていた”証
言者たち“

【大阪城とその周辺エリア】

③ 山里丸刻印石広場

昭和58年(1983)に、大阪築城400年の記念事業として天守閣北側の山里丸に整備された。市内に放置されていた残石や、城内の石垣工事によって撤去された石などのうち、刻印のある石が集められている。
【大阪市中央区】



⑥ 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

施設建設時の発掘調査で発見された豊臣大坂城の石垣で、発掘場所から施設の北側に移設復元されたもの。道路沿いに露出展示された石垣を間近で見学することができる。もとは、追手門学院小学校敷地内で発見された石垣と連続していたと考えられる。
【大阪市中央区】



⑦ 追手門学院小学校

昭和59年(1984)の校舎建て替え時に行われた発掘調査で発見された豊臣大坂城の石垣。平成31年(2019)に新しい校舎の竣工に合わせて「おうてもん石垣ギャラリー」が整備され、道路沿いに設けられたガラス窓から誰でも覗いて見学することができる。
【大阪市中央区】



⑬ 木村重成表忠碑

慶長20年(1615)大坂夏の陣・若江の戦いで戦死した木村重成の碑。明治29年(1896)、豊国神社の境内に建立されたが、神社は昭和36年(1961)に大阪城の二の丸に遷座したため、石碑のみこの地に残った。石の縁に矢穴が刻まれた残石を転用している。
【大阪市北区】



【近畿エリア】

④ 深北緑地

飯盛山を含む生駒山系の地域では、豊臣期・徳川期を通じて採石が行われていたと考えられる。石は谷川を使って麓に下ろし、深北緑地周辺にかつてあった「深野池(ふこのいけ)」から舟に載せて大坂まで運んだ。緑地内には残石が点在している。
【大阪府大東市・寝屋川市】



⑥ 京都府立山城郷土資料館

京都府南部、木津川市加茂にある大野山から運び出されたと推定される徳川大坂城の残石が、資料館の敷地内に展示されている。木津川を用いて大坂へ石を運んだため、川の周辺には多くの残石が点在する。この地域を領有していた伊勢・津藩主の藤堂高虎は大坂城の縄張りを任された。
【京都府木津川市】



良質な花崗岩を産み出す、
宝の山々。

巨石の産地から、
はるばると海を渡って。

【近畿エリア】

⑧ 国指定史跡 大坂城石垣 石丁場跡 東六甲石丁場跡 (兵庫県立甲山森林公園)

西宮から東灘一帯の徳川大坂城の採石場のうち、平成30年(2018)に国の史跡に指定された石丁場跡で、肥前・佐賀藩鍋島家が使っていたと考えられる。切り出す途中で放置された石が多数残ったことで、石丁場での作業行程が明らかとなった。
【兵庫県西宮市】



【西日本エリア】

② 大坂城築城残石群<前島>

朝鮮通信使の寄港地として知られる瀬戸内市牛窓(うしまど)の沖合に浮かぶ前島には、昭和52年(1977)に発見された石丁場跡があり、因幡・伯耆を領した鳥取藩池田家、出雲・松江藩堀尾家の刻印が施された石や巨大な母岩などが残っている。
【岡山県瀬戸内市】



⑤ 国指定史跡 大坂城石垣 石丁場跡 小豆島石丁場跡 (小豆島)

海上輸送により大坂までの石の運搬が便利小豆島内には、20箇所あまりの石丁場がある。なかでも、筑前・福岡藩黒田家が占用し採石を行っていた岩谷(いわがたに)地区の丁場群は国の史跡に指定され、石垣関連などの残石が1600個以上確認できる。
【香川県小豆島町】



⑥ 大坂城残石記念公園 道の駅・みたとオアシス<小豆島>

「とび越(こし)丁場跡」「北山丁場跡」などを抱える小海(おみ)地区にあり、香川県指定の史跡となっている残石群が屋外展示されている。敷地内にある大坂城残石資料館では、徳川大坂城等の石垣関連資料・石工道具などが展示されている。
【香川県土庄町】



⑨ 塩飽本島高無坊山 石切丁場跡<本島>

備讃海域に浮かぶ塩飽諸島の中心となる本島にあり、徳川大坂城築造時に豊前・小倉藩細川家が採石を行った。細川家には作業工程や大坂へ運ばれた石の数が記された文献が残り、現場と記録を照合することができる希少な史跡である。
【香川県丸亀市】



⑬ 沓尾石丁場跡

徳川大坂城築造の際にこの地を領していた豊前・小倉藩細川家が沓尾山で採石を行った。幕末に大庄屋をつとめた守田襄洲(もりたさしゅう)が山の中腹に建立した松山神社の参道脇には、矢穴が刻まれた「霊石」と呼ばれる大石や、「獅子岩」「烏帽子岩」等の巨石群が残っている。
【福岡県行橋市】

